



梅雨の頃 赤波江 豊神父

梅雨に入った。うっとうしい季節でもあるが、この時季心をなごませてくれるものに、あじさいの花がある。特にあじさいが雨にうたれる様には、梅雨の花としての存在感がある。

イタリアでもあじさいをよく見かけた。日本のあじさいと違って、色鮮やかなものも多く、時々赤いあじさいも見かけた。でもあじさいは青いのがいい。しつとりと落ちていて清涼感がある。昨年司祭館の裏庭にあじさいを何本か植えた。まだ木が若いので小ぶりだが花をたくさんつけてくれた。初物は神に捧げようと思って、先週の聖霊降臨の祝日に祭壇に飾った。ところであじさいは特徴があって、それは育つ土壌によって花の色が違ってくるということである。同じ青でも、土の種類によって微妙に違ってくる。それは人間も同じであろう。

最近庭を掘っていたら宝物が出てきた。大正12年発行の5銭硬貨と昭和10年発行の1銭銅貨、それに合衆国の硬貨である。これは腐食していて発行年がわからないが、1セント硬貨であろう。おそらく半世紀以上の眠りから覚めたこれらの硬貨を手に取りながら、不思議な思いにかられる。いったい誰が落としたのだろう。どうしてここに合衆国の硬貨があるのだろう。落とし主はアメリカ人かどうか分らないが、おそらくここに住んでいた宣教師だったのだろう。

スータンを着て司祭館の裏庭にたたずむ宣教師の後姿が目につく。遠い国から日本に来て。言葉、文化の違いと闘いながらこの地で生き、やがて生涯を終え、あのあじさいの花のように、いま天国で彼なりの色で咲いているのであろう。

雨音を聴きながら、窓の外のあじさいの花に今日も目をやる。

(豊中教会にて、2001年6月)

典礼へのご案内

典礼チーム長

カトリック信者として何が一番中心か、といえばやはり『ミサに参加すること』だと思います。
(もちろん来たくても来られない人たちの心も担いつつ...。)

そしてミサに参加することは、ただ一方的にお恵みをいただく、というのではなく、“神の民が賛美と感謝の心を持ってひとつになって神のために捧げる奉仕”なのです。そこにこそキリストがともにおいてくださるのです。(「典礼奉仕への招き」による。)

ミサはたくさんの人の力で成り立っている、ということを私はチーム長になってあらためて実感しました。もちろん第一に司祭、祭壇の準備をする人、受付、そして先唱者、聖体奉仕者、侍者、聖書朗読者、聖歌奉仕者、オルガン奉仕者、奉納者、補聴器や車椅子の世話をする人等々。皆さん、何か一つできることから奉仕しましょう！

受付、献金当番は、地区で担当しています。

聖書朗読をしてみよう、というのは始めちょっと勇気が要りますが、事前に「聖書と典礼」で練習しておけば大丈夫。今奇数月第2日曜はこども、偶数月第2日曜は中高生が担当しています。典礼チームがお世話していますので、新しい方もどんどん申し出てください。

祭壇奉仕については、今はレジオ・マリエの方々に頼っていますが、侍者も含め、今後研修や課題も多いと思います。

聖歌は会衆みんなで歌うものですが、もちろん声がいいとか悪いとか関係ありません。典礼聖歌は、日本語を大事にした祈りそのものだからです。聖歌隊(以前からの15人ほどが在籍)は毎週火曜日10時15分から1時間半ほど練習していますが、その人たちもいつも出られるとは限らず、他の方でたまに出てくださって次週のミサの流れを予習していただくのも、とてもうれしいことです。聖歌隊の役目として、結婚式、お葬式の奉仕も大事な務めです。自分の信仰を育てる上でもよい機会と思いますので、聖歌隊に限らずなるべくたくさんの方ご参加ください。

現在典礼チームは初めの成りゆき上、レジオ・マリエと聖歌隊のメンバーがその構成員になっており、原則毎月第2火曜日に例会をしています。チームにポンと入るのは難しいかもしれませんが、先に申し上げたように皆が一つずつ、少しずつ奉仕してくださるところから“みんなで担う教会”へと発展していくのではないのでしょうか。皆様の積極的なお知恵、お力をお寄せください。

- * 評議会各チーム紹介の第2回目は典礼チームでした。チーム長の呼びかけに応え幅広い典礼活動の何か一つに「一人一役」で積極的に参加しましょう。(議長)

カトリック住吉教会評議会議事録

日時・ 2,009年6月21日(日)11:30~12:50

場所・ 住吉教会 第2会議室

出席者・ 赤波江神父、評議会評議員 16名

オブザーバー・2名

議題・

1. 開会の祈り 赤波江神父様

- ・私たちが望む教会でなく、キリストが望む教会であるよう聖霊の力を頂きましょう。
- ・通知

教皇様は6月19日から一年間を司祭の年とすると宣言されました。

司祭の役割はミサにあり、ミサの再認識と価値に力を入れてゆくという主旨からです。

(集会祭儀はあくまで補足の役割です)

2. 講話 赤波江神父様

ものごとの見方には二通りあるように、例えば子供を育てる時にひとつは、欠点や過ちを正してゆく方法と良いものを育ててゆく方法です。

前者は子供が萎縮しがちですが、後者は安心感と新しい素養が開花してゆけるような希望があり、無限の可能性を持っています。

住吉教会も同じく秘めたる無限の可能性を活かし、このめばえを大切にすばらしい面、いい面をどんどんはぐくませていける共同体として、現状の良い面を育てられるよう期待しています。

3. 議長の話 議長

- ・新議長としての基本方針は下記の二点です

ふれあいの多い、明るい教会づくりを目指す。

教会の将来の発展のため、評議会の安定した基盤づくりに努力する。

一人だけでは、何も出来ないので評議員の皆さんのご協力をお願いします。

- ・評議会の運営は、司祭講話、議長の方針説明、評議員の意見、討議により、今後の教会のあり方の検討を主題とする。
- ・そのため、課題諸事項の一括連絡方式を検討する。(事前連絡・各自検討を実施し、限られた時間内で、どのようにしたら良いかの話し合いの場を持ち、決定していく。)

4. 検討議題

評議会規約の再確認

大阪大司教区からの各小教区への規約改定要請に伴う東ブロック三教会（住吉教会・神戸中央教会・六甲教会）の規約改定実施状況（中央は現在、教区と折衝中）と大司教区承認にいたる経緯の解説、各小教区現行規定の比較、学習を実施した。

（併せ、カトリック住吉教会小教区総会規定、評議会役員選挙規定の再確認も実施）教会ホームページ委員会（仮称）を評議会内に立上げる予定。教会ホームページは対外的（対内的）にも宣教の観点から非常に重要であり、今後総合的な運営を図る。

新型インフルエンザ感染予防対策と、それに派生する問題は継続し検討してゆく。

月報編集方針・ 月報は当教会の司祭、修道者、信徒を結び、よりよき共同体づくりへの重要な役割がある。司祭巻頭言、その他を通じて、信徒の皆様とのきずなを深めるよう、評議会と広報チームが共同で、「すみよし」号とも連携し運営を図る。

「婦人会」の再興・ 教会活性化のため、新しい方向性を含め今後検討していく。

バザー日程の変更・ 今秋の新型インフルエンザ流行の再燃を考慮し、年間行事で策定のバザー日程（11/15）を早め変更する。「10月18日(日)に変更」を決定した。

各チーム長 発言及び連絡

- ・ 次回評議会 7月19日(日)11:00
- ・ 評議会終了 12:50

5. 閉会の祈り 赤波江神父様

以上